

(様式3)

## 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成25年10月16日

### 【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	0891600041		
法人名	社会福祉法人 木犀会		
事業所名	花水木	ユニット名	さくら
所在地	〒309-1717 茨城県笠間市旭町629-4		
自己評価作成日	平成25年5月15日	評価結果 市町村受理日	平成25年10月16日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報 リンク先URL	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/08/index.php?action_kouhyou_detail_2012_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=0891600041-00&amp;PrefCd=08&amp;VersionCd=022">http://www.kaigokensaku.jp/08/index.php?action_kouhyou_detail_2012_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=0891600041-00&amp;PrefCd=08&amp;VersionCd=022</a>
-----------------	---

### 【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人茨城県社会福祉協議会		
所在地	〒310-8586 水戸市千波町1918番地 茨城県総合福祉会館内		
訪問調査日	平成25年7月31日	評価確定日	平成25年10月9日

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

高齢の利用者様が多い中、身体レベルの低下も見られますが、寄り添いながら毎日を楽しんでいただき、ご家族様の思いも含み笑顔のある生活を支援いたします。

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

管理者は「職員が自ら考えて行動することが大切である」という考えに基づき、現場教育や人材育成に力を注ぐとともに、利用者を第一に考えたサービス提供ができるよう取り組んでいる。  
内部研修は一つのテーマに関して同じ内容のものを3日間行い、全職員が受講して習得できるよう配慮している。  
職員は月間スケジュールを作成し、「近くのコンビニエンスストアに利用者と一緒にアイスを買に行く日」や「昔の話をする日」などを計画して利用者の日々の生活に変化を持たせ、生き甲斐のある楽しい暮らしを支援するとともに、利用者との関わりを大切にしている。  
事業所は山や畑など自然に囲まれた環境の中にあり、利用者は職員と一緒に自家菜園で野菜や花を栽培したり、収穫した野菜を食材に取り入れたりして、季節を感じながら暮らしている。  
職員は居間に観葉植物を飾り、利用者が寛いで生活ができるよう配慮している。

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を職員全員で考え一人ひとりの利用者様の思いも配慮しながら実践につなげられるようにしている。又、地域とのつながりもふれあいのできるように心がけている。	事業所独自の理念を全職員で話し合っ作成しており、地域密着型サービスの意義を踏まえた内容となっている。 理念を玄関や事務所に掲示するとともに、職員は毎日の昼礼や月1回開催する全体会議で唱和し、共有しながら実践に努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣の託児所などと連携を取り交流をしたり区や子ども会合流の田植えなどに参加したりしている。町内会に参加して利用者と一緒に回覧回しを行って顔を覚えていただき会話につなげている。花水木の行事に近隣方の招待を予定している。運営推進会議にて区長や民生委員、町内代表などが参加しているので、認知症に関する勉強会を設け、資料なども手渡し一般の家庭の方によければみていただければ、関心をもっていただきたい、又理解をしてもらうよう話している。	町内会に加入し、利用者と職員と一緒に回覧板を回したり、毎月区長に事業所便りを届けたりしているほか、年1回開催する事業所の納涼祭の案内を回覧板で回してもらい、地域住民の参加を得ている。 年2回近隣の託児所と交流を図ったり、利用者は職員と一緒に区や子ども会合同の田植えを見物し、地域の人々と交流している。 近隣の中学校に利用者が縫った雑巾を届けたり、中学生の職場体験を受け入れたりしている。 月1回傾聴ボランティアを受け入れているほか、事業所で行われる敬老会には民謡や手品のボランティアが来訪している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げていく認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	灯籠流し祭りに参加し灯籠を利用者全員で作成し商工回に提供している。近隣のコンビニエンスストアなどに利用者と一緒に買い物に行き挨拶や会話で認知症の理解につなげている。又、散歩に行ったときなど4～5才の子供との会話に楽しみをみだしている。ときより小学校に利用者様が手縫いでつくった雑巾を寄付しにでかけたりしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運理推進会議は年間計画を立てて市職員、民生委員、区長、家族代表、町内代表、利用者代表など参加していただき、2ヶ月1回開催している。会議では家族アンケートの結果を報告したり、行事や今後の取り組みなどを話し合い、意見や提案をサービスの質の向上に生かしている。運営推進委員に行事に参加してもらい、実情をみてもらっている。	運営推進会議は年間計画を立てて利用者や家族等の代表、市職員、区長、民生委員、地域住民の代表で2ヶ月に1回開催し、事業所や地域の行事、外部評価結果、利用状況を報告しているほか、認知症の勉強会などを行っている。 事業所は平成23年10月に現在地に移転したため、移転した当初は地域との交流の機会が少なかったが、地域との交流の機会を広げるために運営推進会議で話し合い、子ども会の廃品回収に協力したり、地域行事の田植えを見物したりして地域の人々と交流を図るなど、出た意見等をサービスの質の向上に活かしている。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
5	4	○市町村との連携  市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市担当者に運営推進会議や事業所の行事に参加してもらい、事業者への理解がえられるように勤めている。事業者から市担当課や地域包括支援センターに出向いて相談するなど、協力関係を築いている。	管理者は市担当者に毎月事業所便りを届けたり、毎月事業所の空き情報をFAXで送ったりして、事業所の状況を報告している。市担当者からはグループホームに入居を希望している高齢者の情報を得て、契約につなげている。市担当者や地域包括支援センターとは日頃から協力関係を築いており、管理者は看取り介護がグループホームで可能なことを地域住民に理解してもらうにはどのように取り組んだらよいかを地域包括支援センターに相談し、助言を基に運営推進会議で看取りに関する勉強会を行っている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践  代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアのマニュアルを作成し、認識を深めたりお互いに注意をしようなど、身体拘束をしないケアの実践にとりくんでいる。又、職員はヒヤリハットの記録を回覧することで利用者の安全を図るように努めて自由な暮らしを支援している。玄関を開けて外に行く利用者様には職員が付き添って見守りをしている。	管理者は「身体拘束ゼロへの行動指針」を作成するとともに、年2回実施する内部研修を通して、全職員が禁止の対象となる身体拘束の具体的な行為とその弊害について正しく理解ができるよう努めている。現在身体拘束の対象者はいないが、やむを得ず身体拘束を行う場合に備え、「緊急時、やむを得ない身体拘束に関する説明書」及び「身体拘束経過記録・再検討記録」の書類を整備している。職員は玄関の施錠を含め、身体拘束をしないケアを実践している。		
7		○虐待の防止の徹底  管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部や内部の研修に行ったりマニュアルを作成し話し合いを行ったり、言葉、行動の虐待について注意を払って観察し職員同志が声かけあっている。			
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用  管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	花水木としても内部研修として年間予定の中に取り組んでいく予定にしている。権利擁護など必要な利用者様には活用できるように支援をしていきたいと思います。			

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得  契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	書類を提示し事前に説明をおこなっている。疑問点にも十分な説明を行っている。経済的なことへの不安、介護報酬改正時には個別に文章とともに説明し理解を頂くようにしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映  利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置しているほか、家族会で無記名のアンケートを実施、家族などの意見や要望をくみ上げるとともに、出た意見等を運営推進会議で話しあい運営に反映している。月1回事業所便りを発行し、事業所の取り組みや利用者の暮らしぶりを伝えることで家族などの意見がでやすくなるように勤めているほか、家族アンケートの結果を家族に報告している。	玄関に意見箱を設置するとともに、家族等の来訪時に意見や要望を聴いている。年2回無記名のアンケートを実施し、結果を家族会で報告している。月1回事業所便りを発行し、事業所の取り組みや利用者の生活の様子を伝えることで家族等から意見が出し易くなるよう努めている。利用者も運営推進会議に参加し、運営に関して話し合っている。今までは事業所の行事に家族等を招待していなかったが、「行事に参加したい」との家族等の要望を受けて運営推進会議で話し合い、敬老会などの事業所の行事に家族等を招待するなど、出た意見等を運営に反映させている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映  代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日のミーティングや会議で意見や提案を聞いており、意見等を出しやすい雰囲気づくりを心がけている。個別にも話しを聞いている。管理者は利用者や接する機会が一番多い職員同志が話しあい物事を決めていくように指導しており、職員の意見やアイデアが運営に反映されている。	管理者は毎日の昼礼や月1回の全体会議で職員の意見や提案を聞くほか、個別に話を聞いている。管理者は職員同士の話し合いにより業務を円滑に進めていくことを指導しており、職員の意見や要望は全体会議で話し合っている。職員から出た意見等を受け、シャワーチェアを買い替えたり、利用者の嚥下機能に合わせて副食をミキサー食から刻み食に変えたりするなど、サービスの質の向上に活かしている。	
12		○就業環境の整備  代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者はボーナス時には準職員にも寸志をだすようにしている。管理者は職員の疲労ストレスに気を配り職員が協力体制が良いから「花水木」が楽しい笑いのある職場でいられるとねぎらいの言葉をかけている。行事などアドバイスをしながらやり遂げた満足感を感じ取って向上心につなげられるようになっている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人として代表者は全体として研修を年間予定として組み入れている。管理者は力量を把握し役割を持たせ外部研修を受けた職員は伝達し、内部研修でも年間予定をたてている。些細なことでも必ず職員同志ケアの確認をする事でチームワークの勉強につなげている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	系列の施設の見学や研修で内容を把握、活動やケアについてサービスの向上につなげている。他施設の研修に参加している。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	言葉掛けや寄り添いながら生活をしていただきことで不安を解消し要望などを把握しそれに対応できるようにしています。又他の利用者との関係づくりのため、職員があいだに入り一緒にレクリエーションや日常の作業をしながら橋渡しをしています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様にサービスの内容を詳しく説明し家族の苦労や不安要望に耳を傾けながら又、実際に見ていただきながら利用される事で広がっていく可能性を前向きにお話をしています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者様のご自宅での様子などを傾聴し本人やご家族の思い状況を確認しよりよい支援の提案など話しあいながら信頼関係を築き必要なサービスにつなげるようにしている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は日常生活の中で体験したことなどを教えていただいたり、実際にやっていただいたり見させていただいたりしながら、そういう場面がおおくもてるように工夫や声かけに配慮している。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	月に一度は広報誌とともに日常の暮らしぶりをご家族へ送っている。疎遠となっているご家族もそれによって現在のその人の暮らしぶりの情報が得られている。電話や行事への参加が増えてコミュニケーションがとれている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	職員は利用者が希望するなじみの場所に出かけられるように実家など職員とともに出かけたり、野菜をいただいたりして帰ってきてから、一緒に料理をつくったりしている。これまでの関係が途切れないように支援しているとともに、遠方の場合は利用者の希望を家族に伝えている。知人や友人が面会に来た際はゆっくりと話ができるように支援するとともに、馴染みの人との関係が途切れないように電話や手紙での支援にも努めている。又、家族には知人や友人の面会の許可をえている。	職員は利用者の実家への訪問や墓参りなどを支援しているほか、馴染みの美容室を継続して利用ができるよう支援している。 利用者が家族等へ電話をかけたり手紙を出せるよう支援し、これまでの関係が継続できるよう努めている。 利用者の知人や友人が来訪した際には、居室でゆっくり過ごせるようお茶を出すなどの配慮をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個別に話しを聞いたり相談に乗ったり、利用者と一緒に過ごす時間やユニットを行き来したり気の合う同士が過ごせる時間をつくり円滑になるように調整役として支援している		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設などへ移動され契約が終了したご本人、ご家族にたいしても降りに触れて不安なこと相談ごとはないか声かけすることになっている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	9	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	職員は利用者との日常の会話や表情、顔色から思いや意向の把握に努めるとともに、小さな事でも記録、ケースファイルに記入し、全職員で共有し朝礼や昼礼で話しあい、利用者本位の支援をしている。	職員は日常の会話の中から利用者の思いや意向を聴いている。 会話が困難な利用者の場合は、表情やしぐさなどから思いを推し測るよう努めている。 新たに把握した思いや意向は申し送りノートや個人ファイルに記録して全職員で共有するとともに、朝礼や昼礼で話し合っ利用者本位の支援をしている。 事業所の夏祭りでは「化粧をしたい」や「浴衣を着たい」などの利用者の希望を聞き、意向にそった支援をしている。		
24		○これまでの暮らしの把握  一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前調査はできる限りご本人の馴染みの暮らしをしている場所へ伺いそこから得られる情報を大切にしている。			
25		○暮らしの現状の把握  一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日の過ごし方、心身状態についてはケース記録にて把握できるように記録し特に特変事項を中心に申し送りを行っている。季節や入院、退院などにより状況の変化があるため、その都度把握するようにしている。			
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング  本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリングを実施し計画作成担当者が中心となり利用者や家族などの思いや職員のきずきを朝礼や昼礼で話しあいカンファレンス時には変更事項を介護計画に反映している。介護計画は家族などの確認を得ている。	計画作成担当者が中心となり、利用者や家族等の思い、職員の気付き等を朝礼や昼礼で話し合っ介護計画に反映させている。 毎月モニタリングを実施するとともに、3ヶ月毎に短期計画、6ヶ月毎に長期計画を見直しているほか、利用者の状況が変化した場合には随時介護計画を見直している。 介護計画は利用者の意向や趣味の実現に向けた具体的な目標を設定しているが、身体の状態に合わせて作成するまでには至っておらず、嚥下機能が低下した利用者には食事前の嚥下訓練を取り入れたり、歩行機能が低下した利用者には車いすでの足踏み訓練を取り入れたりするまでには至っていない。	利用者の身体状況に合わせた介護計画を作成することを期待する。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランの課題サービス内容実施時のご本人反応を中心に記録しケア側の気付きも記録している。特変事項は申し送りしケアプランへ反映している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人家族の希望のかかりつけ医へ家族とともに付き添いしている。その他個人の希望で買い物と一緒に言ったり、実家へいたりしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアの方達と行事の中で歌や踊りを一緒におこない買い物や外出も回数を増やし地域の方達との交流を心がけ室内では食器拭き、洗濯たたみ、部屋の掃除など残存機能を生かし意欲的な雰囲気の中、楽しく生活を送るように支援している。外では洗濯干し、玄関の外での履き掃除、回覧回しも一緒に行っている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	提携病院より往診、訪問看護ステーションより健康管理と相談を24時間体制で対応している。歯科、整形外科、眼科などの受診は本人や家族の希望に応じて対応している。	職員は利用者のかかりつけ医への受診に付き添うとともに、結果を個人記録簿に記載したり、昼礼で報告したりして、全職員で共有している。 家族等が受診に付き添う場合でも職員が同行し、利用者の状況を報告するとともに、受診結果を家族等と共有している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	体調や些細な表情の変化をみのがさないように早期発見変化など気付いたことあれば管理者、ケアマネに報告し訪問看護ステーション看護師または往診のドクターに連絡対応している。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働  利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時はお見舞いをし、不安を取り除きご家族と連絡を取り詳しい状況を報告している。病院の主治医や相談員とも連絡をとり又往診のドクターや訪問看護ステーションとも連絡を取り合って退院時も健康管理を行い適切な医療が受けられるように支援している。 (月2回の協力医療機関のドクターによる訪問診療や週1回の訪問看護ステーションによる健康管理を行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援  重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や看取りの対応方針を契約時に利用者家族などに説明するとともに同意を得ている他、意思確認書を作成している。家族会で看取りに関する勉強会を開催し事業所と家族などの共通認識に勤めている。又、無記名アンケートでも重度化や見取りについて理解ができていくかの確認をしている。看取りにむけて研修を行い職員が理解を深めるように勤めている。	「重度化した場合における対応及び看取りに関する指針」を作成し、契約時に利用者や家族等に説明して同意を得ている。 事業所では看取りの経験はないが、管理者は看取り介護の重要性を認識しており、看取り介護に関する内部研修を実施している。 運営推進会議で看取り介護の勉強会を実施し、グループホームでも看取り介護が可能なことを地域の人々に周知している。	
34		○急変や事故発生時の備え  利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	「花水木」として年内に計画をたて研修をおこなう予定である法人としても研修を考えている。又転倒、誤燕時などの処置連絡確認を行っている。		
35	13	○災害対策  火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の指導で年2回避難訓練を実施するとともに、実施記録を作成し訓練で明らかになった課題を話し合っている。災害に備え食料や飲料水のほかガスコンロ、ガスボンベなどその他を備蓄している。消防団の話しあいも旭地区で施設が増えたのでそここのところをどういうふうに関わっていくか考え中との事、引きつづき話しあいをしていく。	年2回避難訓練や消防設備点検を実施しているほか、年に数回夜間想定を含む自主避難訓練を実施しているが、訓練に地域住民の参加を得るまでには至っていない。 避難訓練実施記録に基づきながら、課題の解決に向けて職員で話し合っている。 災害に備えて米やレトルト食品、飲料水、卓上コンロなどを備蓄してリストを作成しているが、定期的に点検をした記録が残されていない。	避難訓練に地域住民の参加が得られるよう、運営推進会議の議題に取り上げて呼びかけるとともに、地域との協力体制を築くことを期待する。 備蓄品リストは賞味期限や点検の有無が明確になる書式に改良するとともに、備蓄品の種類が十分な内容となっているかなどを職員で話し合うことを期待する。

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保  一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の声かけも個人を尊重し言葉使いに気を配り、家族の希望にあわせて、利用者が聞きなれたよびかたで対応している。トイレ誘導や失禁時の声かけは誇りを損ねないように注意しているほか、ポータブルトイレは一目につかないように布をかぶせるなどの配慮をしている。個人情報に関する書類は事務室に保管している。	管理者は年1回プライバシーの保護に関する内部研修を実施している。 職員はトイレ誘導や失禁時には、利用者のプライドを損ねないような声かけや対応をしているほか、居室にあるポータブルトイレは人目に付かないように布で覆うなどの配慮をしている。 個人情報に関する書類は事務室の鍵のかかるロッカーに保管している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援  日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の希望に応じて外出支援外食の支援を行っている。本人の訴えを優しく受け止め無理強いしないように混乱しないように答えやすく選ぶことができるように支援している。利用者が外へいきたい時は職員と一緒にあるいて付き添っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりのペースにあわせて家事支援や外出支援を柔軟におこなっている。その日の体調や気分を配慮しその時の利用者の気持ちや尊重し無理のない内容で対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	日中でも本人の意思にて着替えなどを行っている。自己決定がしにくい利用者には既設など香料しながら一緒に考えたり選べるように支援している。移動美容室も利用している。行事のときは特に女の方はお化粧を職員がお手伝いして生き生きとしている。時折おしゃれスクールやメイクアップの方にボランティアで来ていただき生き生きとした姿への支援をしている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	畑で収穫した野菜を加えるなど栄養バランスの良い食事を提供している。利用者にその日の体調にあったご飯の量を確認したり咀嚼や嚥下状態にあった食事形態となるように配慮をしている。利用者はできる範囲で下膳や食器拭きなどを職員と一緒にやっている。	自家菜園で栽培した野菜を食材に取り入れ、季節感のある食事を提供している。利用者の咀嚼機能や嚥下機能に合った食事形態となるよう配慮している。職員は利用者と一緒に同じ食事を摂っている。利用者はできる範囲で職員と一緒に野菜の皮むきや下膳、食器拭きなどを行っている。職員は利用者の誕生日や季節行事の際に利用者の希望を取り入れた特別食を提供しているほか、年1回外食ツアーを実施している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	副菜が多いときはご飯は少し減らしています。途中間食のあった方は3食で調節するようにしています。水分制限のあるかたは目安表を摂取していただいています。利用者の身体機能に応じて刻み食ミキサー食、栄養補助職員などの支援をしています。		
42		○口腔内の清潔保持  口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	義歯はポリドントなどで洗浄しています。残存歯はできるところまでご自分で歯間ブラシを利用していただき仕上げは介助しています。必ずうがいを食事のあとにはいただいています。		
43	16	○排泄の自立支援  排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表を参考に排泄パターン、利用者のサインに気付き又、トイレの訴えのない利用者でも排泄を促し気持ちよく排泄できるように支援している。	職員は排泄チェックシートを参考に利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、タイミングを見計らってトイレ誘導をしている。排泄の訴えが無い利用者の場合は、サインを読み取りながらトイレで排泄ができるよう促しているため、失禁の減少につながっている。排泄効果のある食材を献立に取り入れたたり、排便が困難な利用者に対して入浴時やトイレに座った時に腹部マッサージを行ったりして、自然排便を促している。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応  便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表を参考に排泄パターン、利用者のサインに気付き又、トイレの訴えのない利用者でも排泄を促し気持ちよく排泄できるように支援している。参考に便無し続く時ヨーグルト、オリゴ糖、バナナ、寒天など食べていただく。腹部マッサージ、便秘予防体操など行い水分摂取し排便チェック表を使用して一人ひとりの状況に応じしえんしています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援  一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴表を作成し週2回から3回入浴できるように支援をしている。入浴をこのまない利用者には日をずらしたり、清拭や足浴などの対応をしている。	週2回の入浴を基本としているが、利用者の希望にそって毎日の入浴も可能となっている。 入浴を拒む利用者に対しては無理強いせず、入浴日を変更したり、清拭や足浴で対応している。 菖蒲湯や柚子湯で季節感を取り入れたり、利用者と職員で歌を歌いながら入浴が楽しめるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援  一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの意向を確認しながら利用者の状態にあわせ休まれる環境を整え休息したりしていただけるようにしています。		
47		○服薬支援  一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各居室担当による服薬状況の確認や薬のジョイントのチェックを行い薬使用にあたっての用法、用量などレポートなどにまとめるなど薬の変化の確認に勤めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援  張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	畑での野菜作りや調理食器の片付け、洗濯物たたみ、毎日のリハビリ体操などの利用者一人ひとりに合った楽しみや自信のもてる役割の支援をしている。役割の終了後に必ず感謝の言葉を伝えている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援  一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者の希望で個別に買い物、コンビニエンスストアでのお茶飲みや職員により個別散歩支援、天気の良い日には事業所ないの長いすに座ったりしてくつろいでいる。家族と外食ツアーを年間内で予定をたてている。(10月ごろ)	天気の良い日は事業所内を散歩しているほか、利用者の希望にそって個別に買い物に行けるよう支援している。 近くのコンビニエンスストアに出かけ、飲食コーナーで購入したお茶を飲むことが利用者の楽しみとなっている。 市内の寺院に初詣に出かけたり、花見や年1回家族等と一緒に外食に出かけられるよう支援しているが、リフト車を備えていないため、車いす使用の利用者は一緒に外出する機会が少ない状況となっている。	普段は行けない場所への外出は、利用者の楽しみの一つであることから、リフト車のレンタルやボランティアなどの社会資源を活用し、車いすを使用している利用者も一緒に出かけられるよう検討することを期待する。
50		○お金の所持や使うことの支援  職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金属貴重品はホーム内で管理保管しているが財布など保管場所などを利用者に伝え不安にならないように支援、外出買い物時には本人が精算されるように支援し本人によっては恥をかかせないように職員が前もって準備している。		
51		○電話や手紙の支援  家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の申し出によりホームの電話を使い知人への連絡をしている。又年賀状など本人に書いていただいたり、手紙等情報交換も支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり  共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間は少し狭いが新しい建物になり段差も泣く事務所を通りユニットからユニットへ自由に行き来ができ、なじみの職員、利用者との会話にはずんでいる。リビングから景色も遠くに山が見えたり、栗畑が見えたり自然を感じられ気分をやわらげてくれている。花壇で花や畑で野菜を作り室内に飾ったり献立に加えるなどで、暮らしに季節感をとりいれている。	事務所を挟んでユニット間の行き来ができるようになっており、利用者や職員はユニットの垣根なく自由に交流したりして馴染みの関係を築いている。 居間からは遠くに山や栗畑が眺められ、自然を身近に感じられる空間となっている。 居間の一角に観葉植物を置いたり、壁に毎月利用者が制作しているカレンダーや、敬老会や夏祭りなどの行事の写真を掲示したりしているほか、利用者と職員と一緒に制作した折り紙で折った花のくす玉を下げて飾るなど、家庭的な雰囲気づくりをしている。 玄関先に季節の花を植えたプランターやベンチを置き、利用者がゆったりと過ごせるよう工夫している。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり  共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングの他にも椅子ベンチ（玄関の外）において思い思いに過ごせるようにしている。気の合う利用者同士がユニットからユニットへ移動して話ができるようにしている。ゆっくりと独りになれたり家族などゆっくり話しあえるご自分の部屋がある。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	生活用品の持ち込み制限はなく利用者は家族と相談しながらテレビ、家具、仏壇などを持ち込むとともにアニマルセラピーでいやしの犬のぬいぐるみなどで心をいやしている。又昔、ちぎり絵を教えていた利用者は部屋に飾っている。	居室にはエアコンやカーテン、クローゼットが備え付けられており、ベッドや寝具は利用者が使い慣れた物を持ち込んでいる。 利用者は居室に使い慣れた椅子や小テーブル、衣装ケース、テレビなどのほか、仏壇や家族等の写真、ぬいぐるみなどを自由に持ち込み、一人ひとりの生活スタイルに合った居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり  建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	共同空間では廊下をはじめ手すりを随時設置。居間においては独りひとりの身体機能に合わせて、ベット、ポータブルトイレ、家具類を設置し自立した生活がおくれるように工夫している。リハビリが必要な方は作業療法士のもとリハビリを個別でおこない自立にむけて安全な環境をつくっている。		

V アウトカム項目		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○ 1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○ 1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○ 1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="checkbox"/> 1, ほぼ毎日のように <input type="checkbox"/> 2, 数日に1回程度ある <input type="checkbox"/> 3, たまに <input type="checkbox"/> 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	<input type="checkbox"/> 1, 大いに増えている <input type="checkbox"/> 2, 少しずつ増えている <input type="checkbox"/> 3, あまり増えていない <input type="checkbox"/> 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	<input type="checkbox"/> 1, ほぼ全ての職員が <input type="checkbox"/> 2, 職員の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 3, 職員の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="checkbox"/> 1, ほぼ全ての利用者が <input type="checkbox"/> 2, 利用者の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 3, 利用者の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="checkbox"/> 1, ほぼ全ての家族等が <input type="checkbox"/> 2, 家族等の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 3, 家族等の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4, ほとんどいない

(様式4)

## 目 標 達 成 計 画

事業所名           花水木          

作成日           平成25年10月16日          

### 【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	13	備蓄品の消費期限のチェックは行っていたが、チェックリストが作られていなかった。	備蓄リスト管理表を作成する。	リスト表をもとに消費期限を確認し補充を行う。リストを作ることにより職員全員が把握できるようになる。	1年
2	18	近隣のための外出にとどまっている。希望に添った外出が不足している。	普段は行けない所へ計画をたてて外出する。	季節の良い時期（春、秋）に入居者様希望の外出を計画し実施する。	1年
3	10	ケース記録にご本人の思いを拾いやすくしているが、それが介護計画に反映されていない。	入居者様の発した言葉の記録から取り入れた個別計画をたて実施する事。	ケース記録のご本人の言葉を拾い出しそこからご本人の思いを推測し介護計画に反映する。	1年
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。